
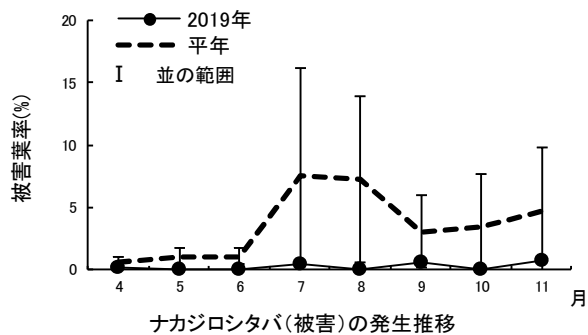
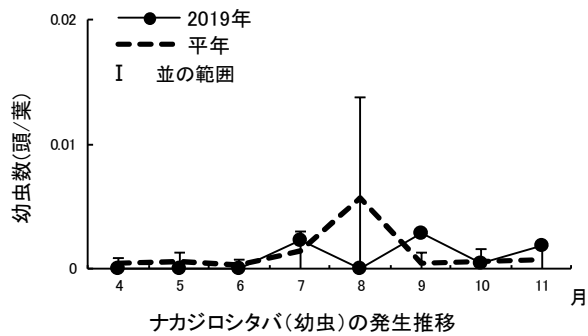


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	—	
	11 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

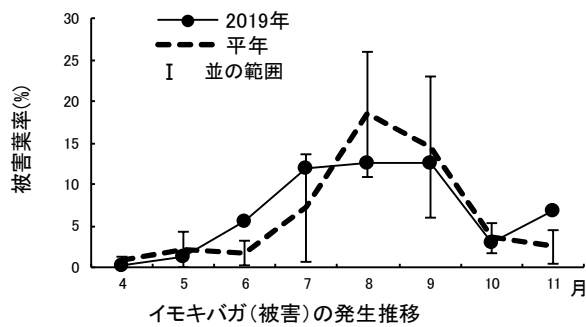
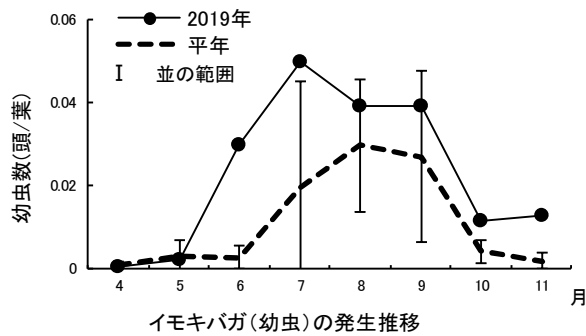


防除のポイント

- ・ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② イモキバガ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	—	
	11 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果



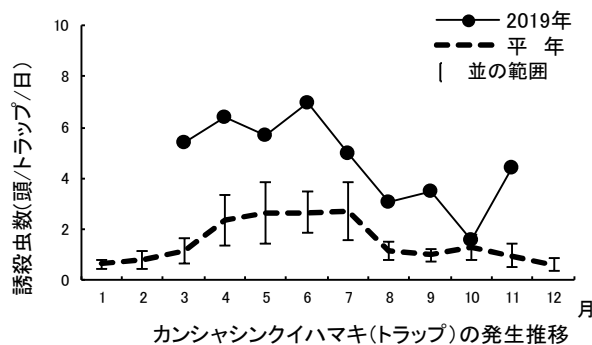
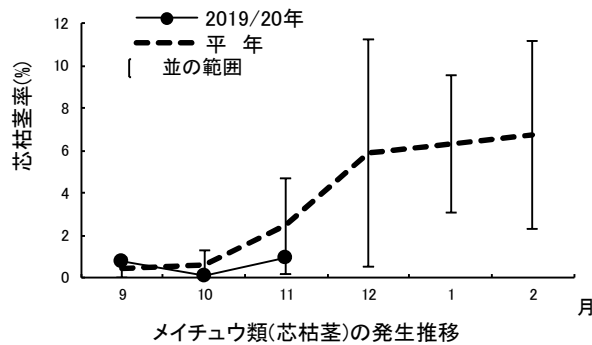
防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	




調査結果



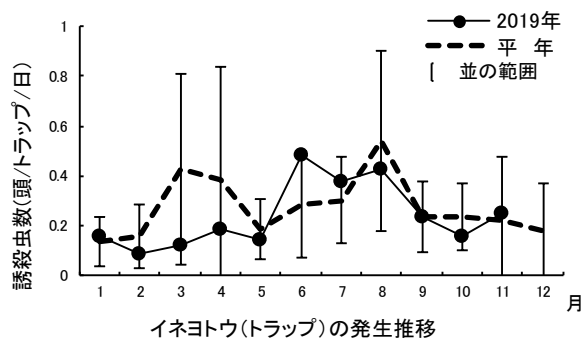
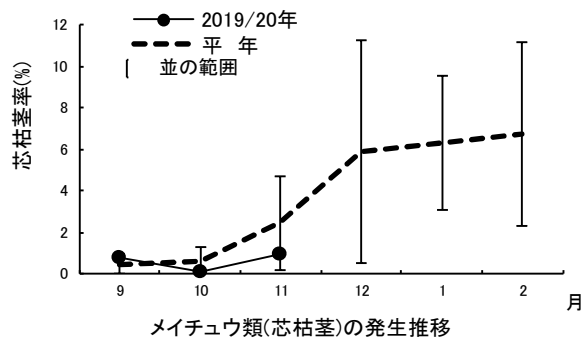
- ・茎内で発見したメイチュウ類12匹のうち8匹がカンシャシクイハマキであった。
- ・病害虫防除員報告：多発生（久米島）

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (ノ)	


調査結果



- ・茎内で発見したメイチュウ類12匹のうち4匹がイネヨトウであった。
- ・病害虫防除員報告：多発生（久米島）

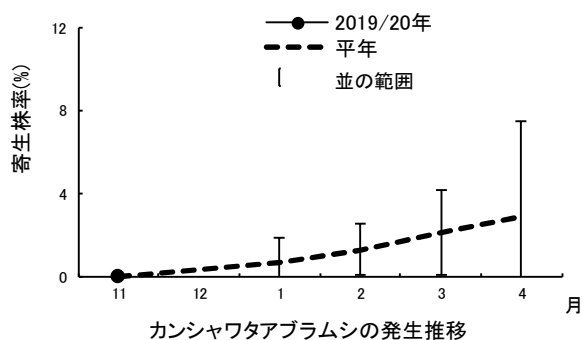
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

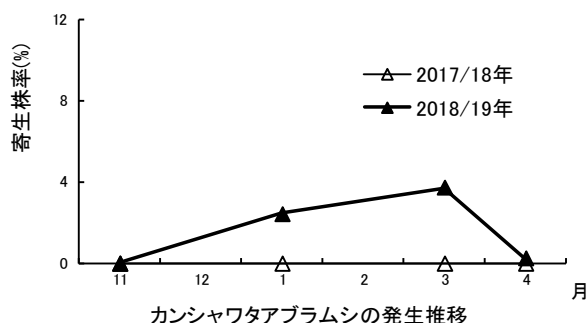
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	③ カンシャワタアブラムシ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移

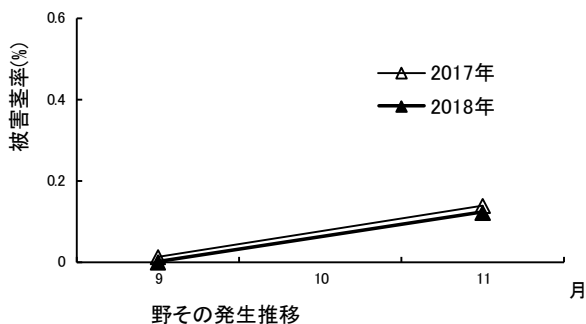
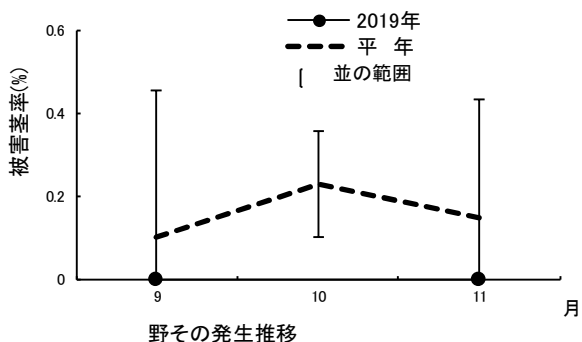


防除のポイント

- ・多発すると吸汁害及びすす病によりさとうきびの生育が遅延するため、早期発見・防除に努める。
- ・本種は秋期に飛来した有翅虫が第一世代となり、数世代にわたり増殖して春期の大発生を引き起こす。葉裏をよく確認し、発生が見られる場合は2~3月までに初期防除を行う。
- ・多発時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。
- ・捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	④ 野そ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	—	
	11 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果




防除のポイント

- ・管理されていない耕地などで繁殖するため、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- ・野積みされた剥葉残さなどに巣を作るため、野積みを行わない。
- ・被害は台風で倒伏した収穫前のほ場で多い。
- ・被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

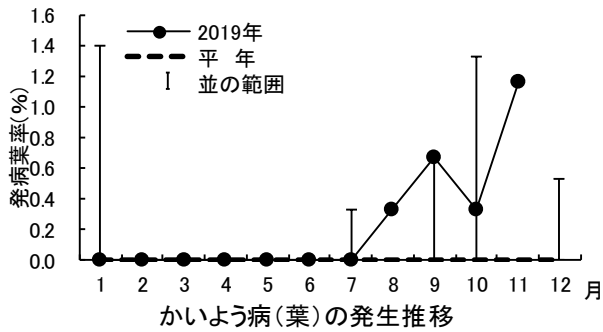


野そによる茎の食害

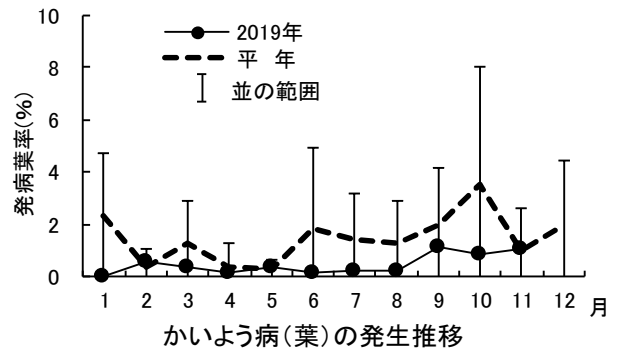
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	12 月の発生量（平年比）	やや多	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

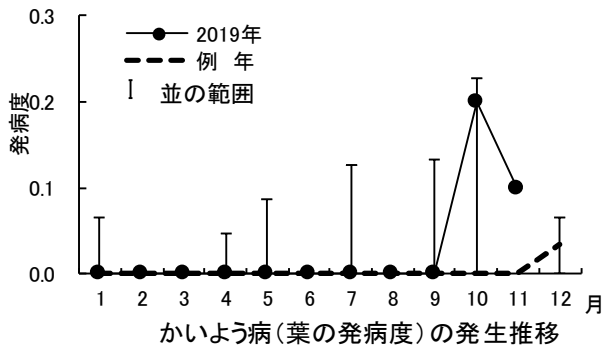
（発病葉率） 〈中央値〉



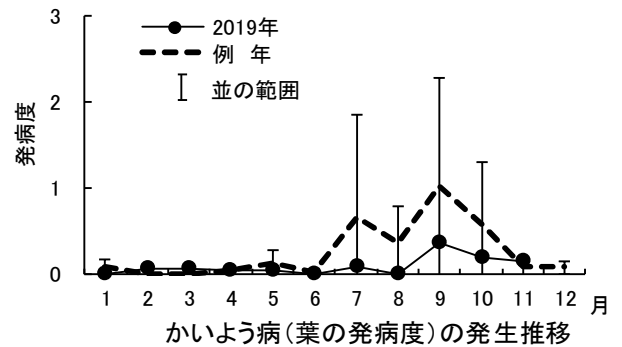
〈平均値〉



（葉の発病） 〈中央値〉




〈平均値〉



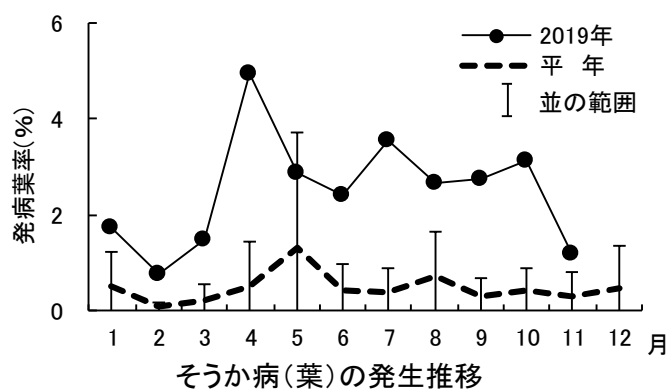
防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

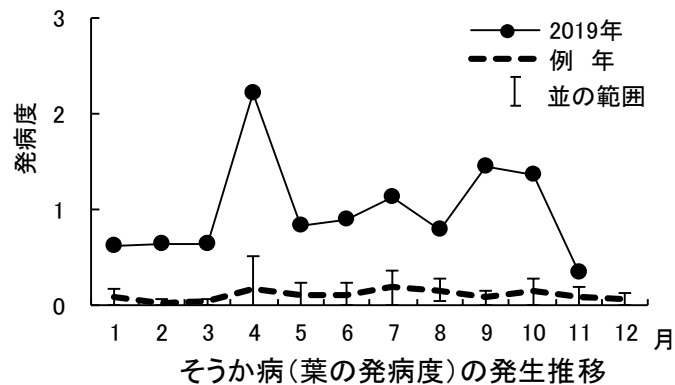
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
予報	12 月の発生量（平年比）	多	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

(発病葉率)



(葉の発病度)



防除のポイント

- 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害果→

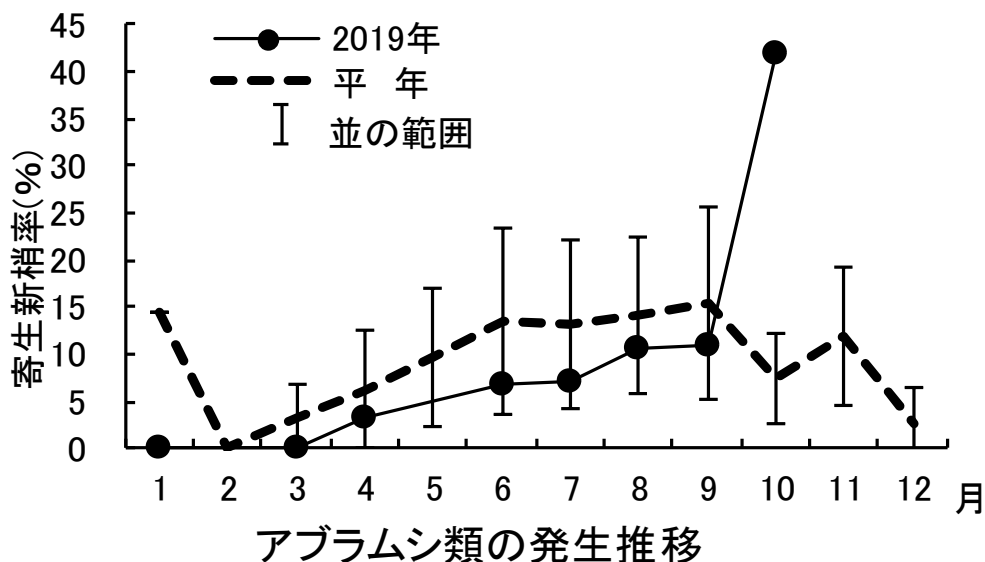




作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
予報	12 月の発生量（平年比）	—	
	11 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	—	
	その他 (気象要因など)	—	



調査結果




- ・ 調査新梢数が足りなかったため11月の調査データなし

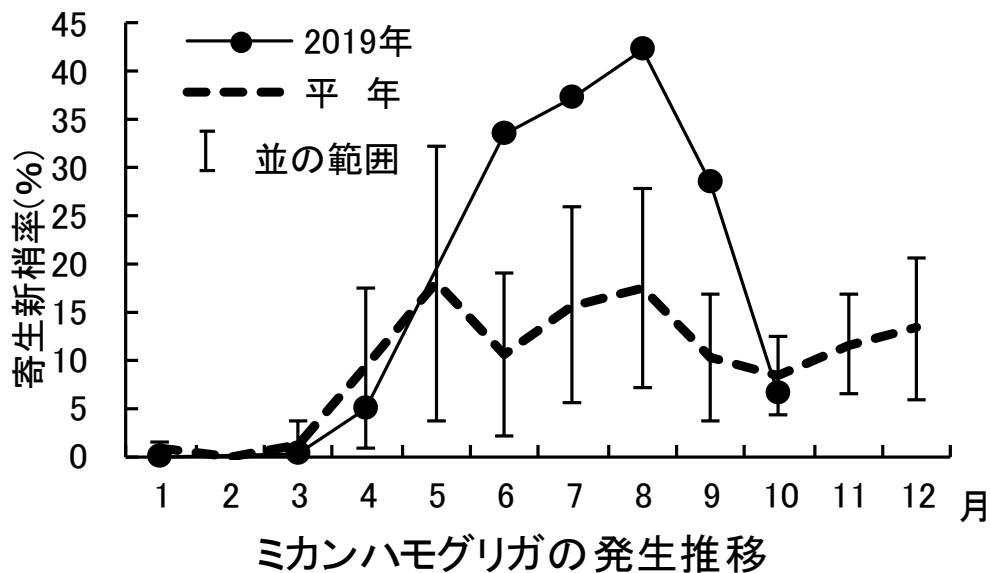
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	ミカンハモグリガ		
予報	12 月の発生量（平年比）	—	
	11 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	—	
	その他 (気象要因など)	—	


調査結果



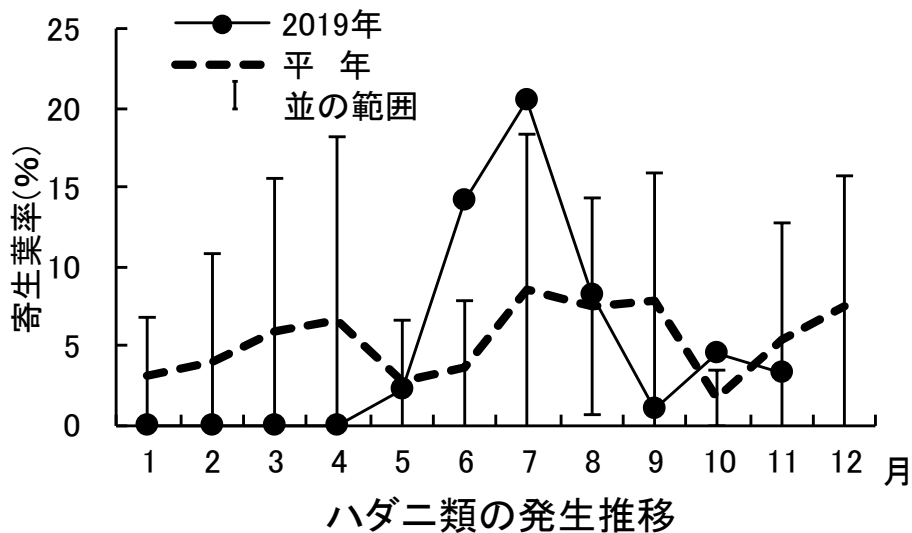
- ・ 調査新梢数が足りなかったため11月の調査データなし

防除のポイント

- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、翌年の伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
予報	12 月の発生量（平年比）	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果




防除のポイント

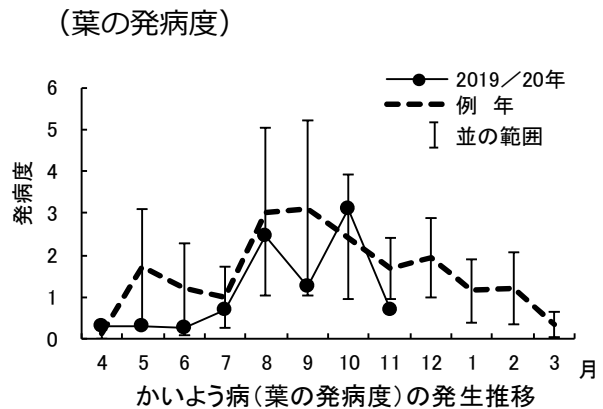
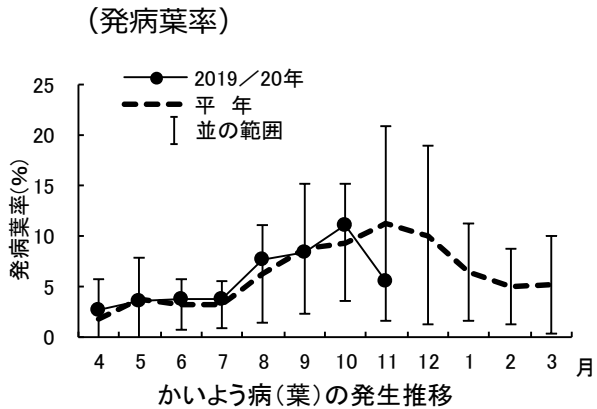
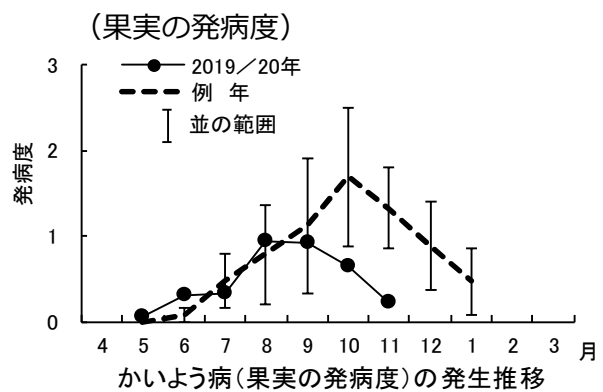
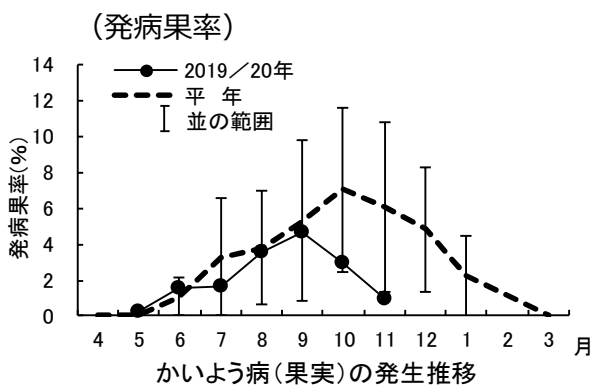
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果



・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は翌年の伝染源になるので除去する。

被害葉→

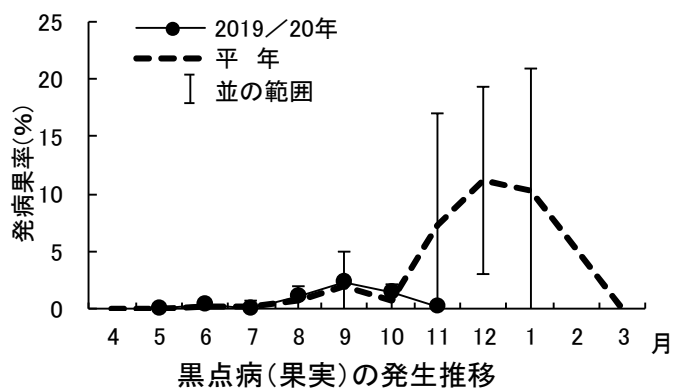


作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

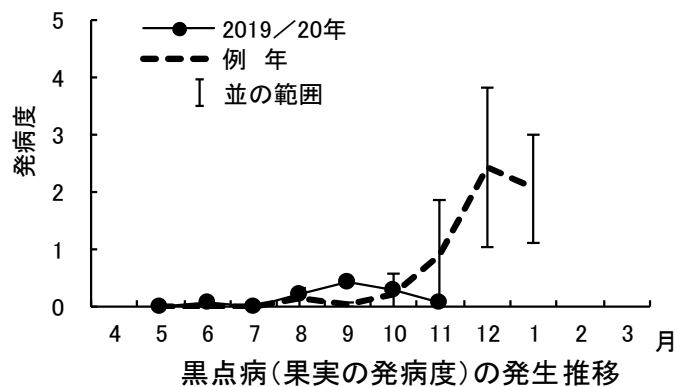


調査結果

(発病果率)



(果実の発病度)



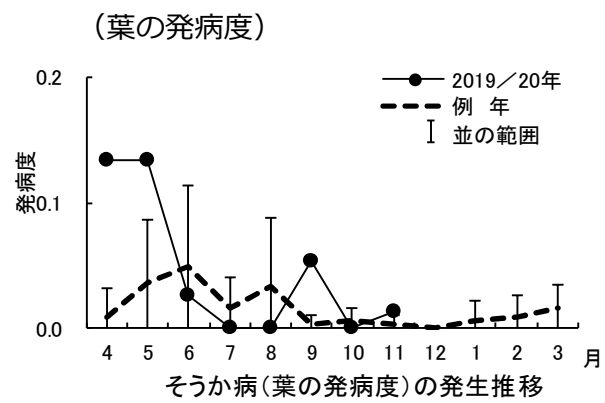
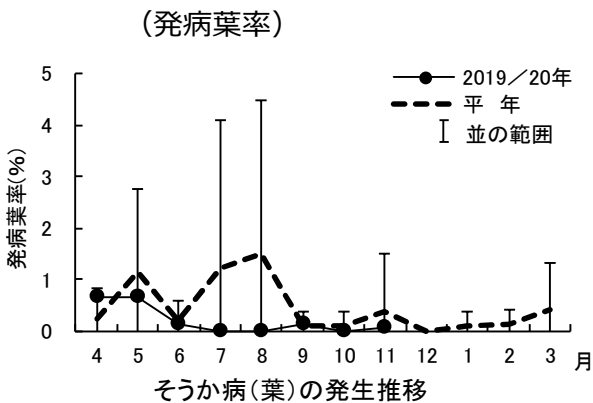
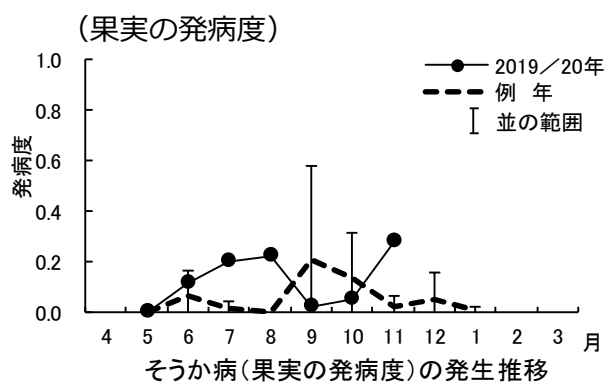
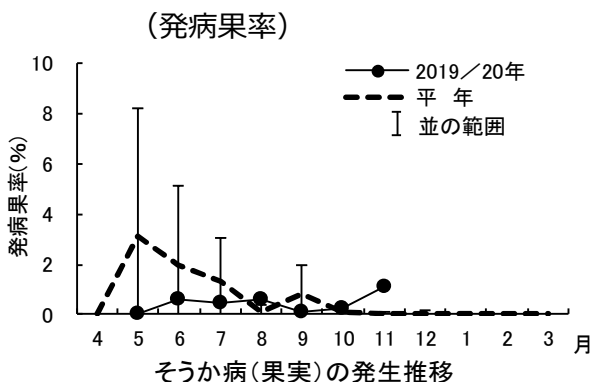
防除のポイント

- ・周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	



調査結果




防除のポイント

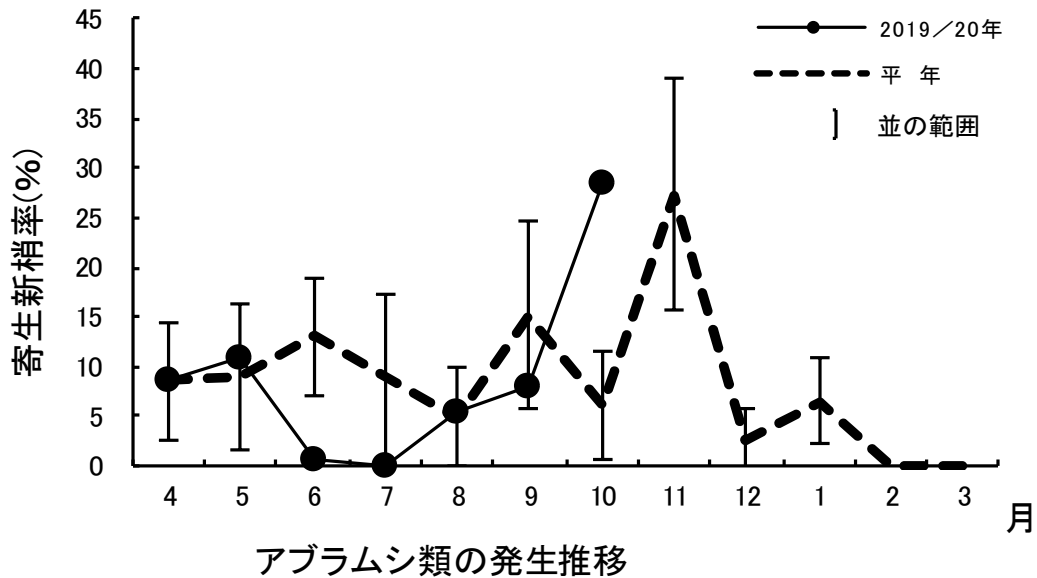
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。



被害葉→

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	—	
	11 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	—	
	その他 (気象要因など)	—	

調査結果




- ・ 調査新梢数が足りなかったため11月の調査データなし

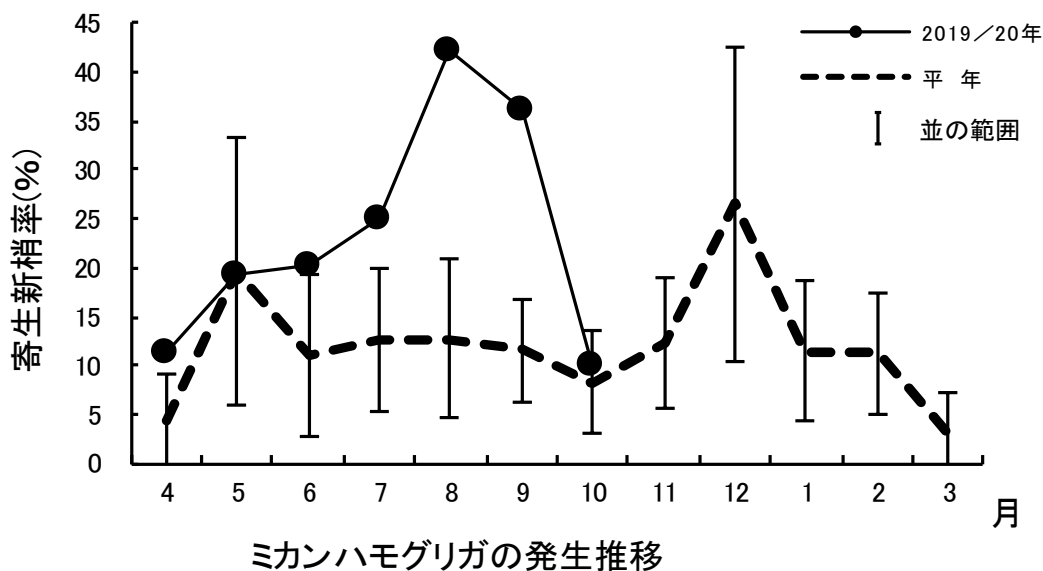
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	ミカンハモグリガ		
予報	12 月の発生量（平年比）	—	
	11 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	—	
	その他 (気象要因など)	—	

調査結果




- ・ 調査新梢数が足りなかったため11月の調査データなし

防除のポイント

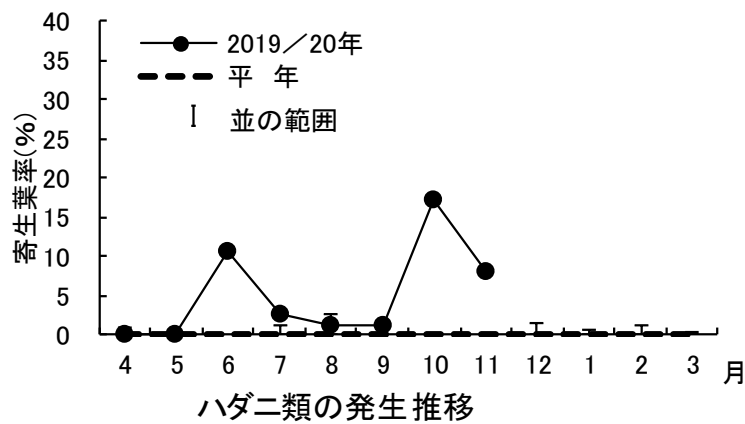
- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。



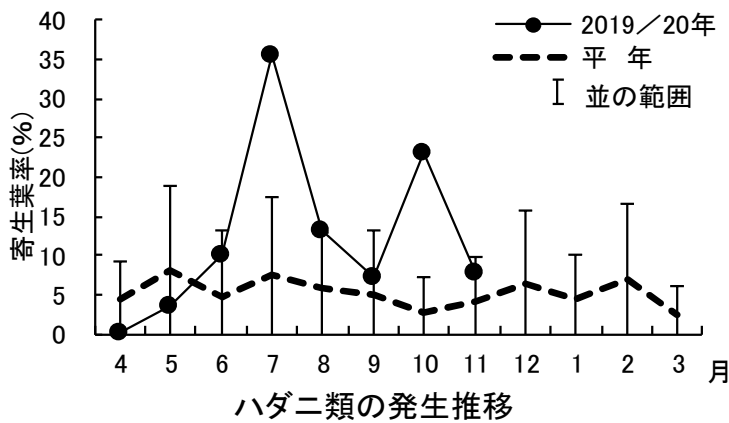
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

〈中央値〉



〈平均値〉




防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



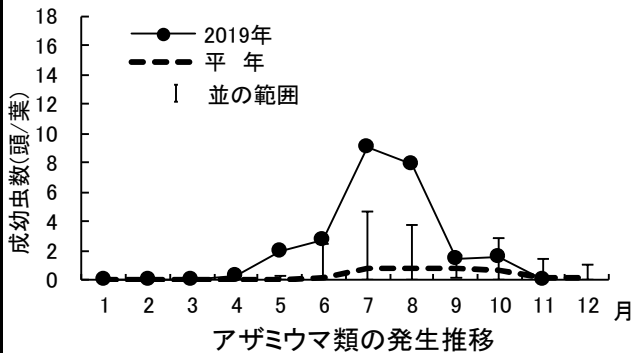
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

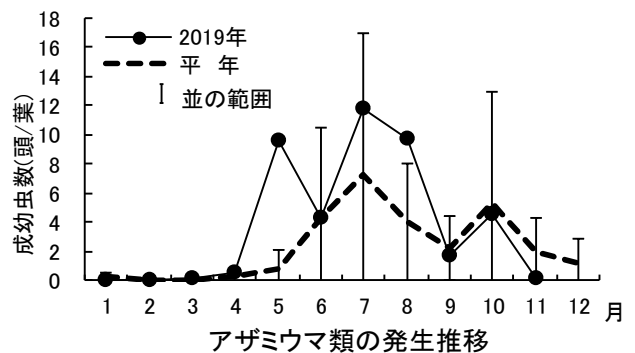
調査結果

(見取り調査)

〈中央値〉

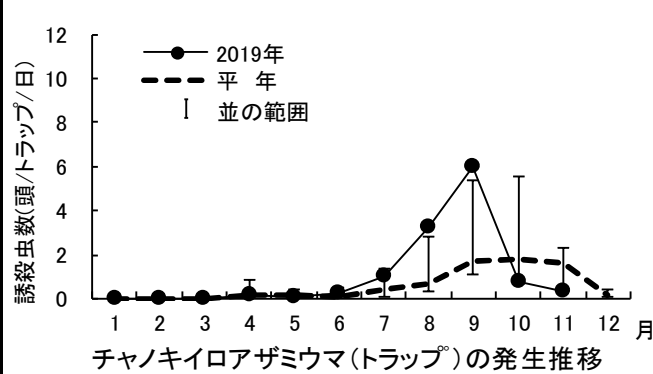


〈平均値〉

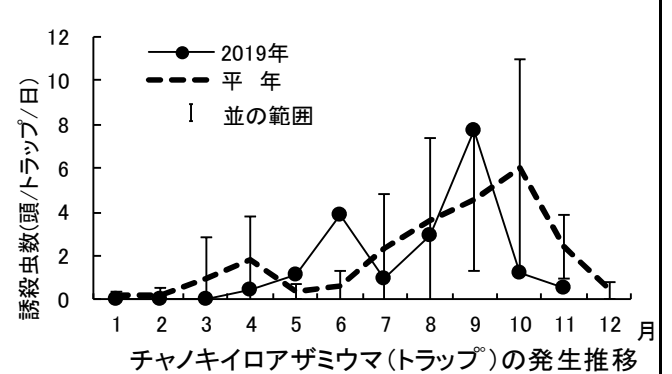


(トラップ調査)

〈中央値〉



〈平均値〉




防除のポイント

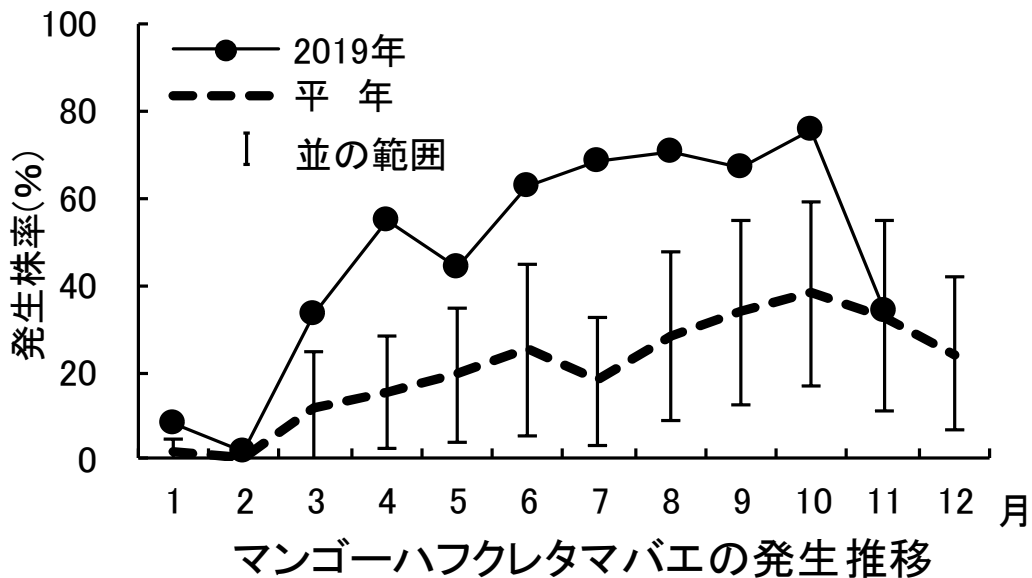
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	


調査結果



- ・ 被害新梢率：19.9%
- ・ 発生施設率：75.0% (平年44.4%)
- ・ 病害虫防除員報告：中発生 (本島北部)

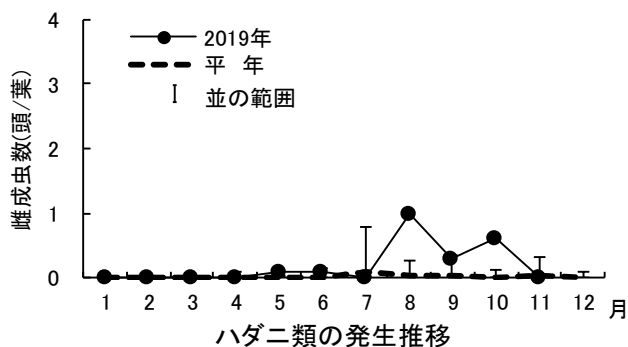
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

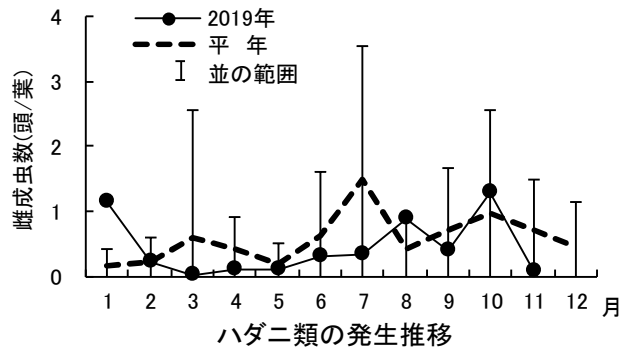
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

〈中央値〉



〈平均値〉




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
- ・ 発生施設率：37.5% (平年51.5%)
- ・ 新梢での寄生雌成虫数：0頭

防除のポイント

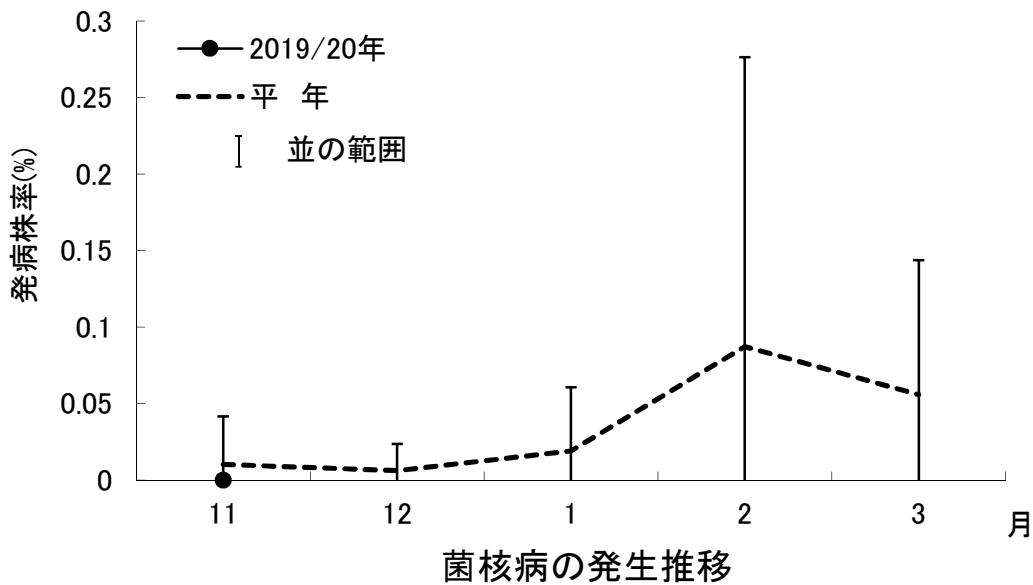
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	キャベツ		地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病			
予報	12 月の発生量（平年比）	並		
	11 月からの増減傾向	→		
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

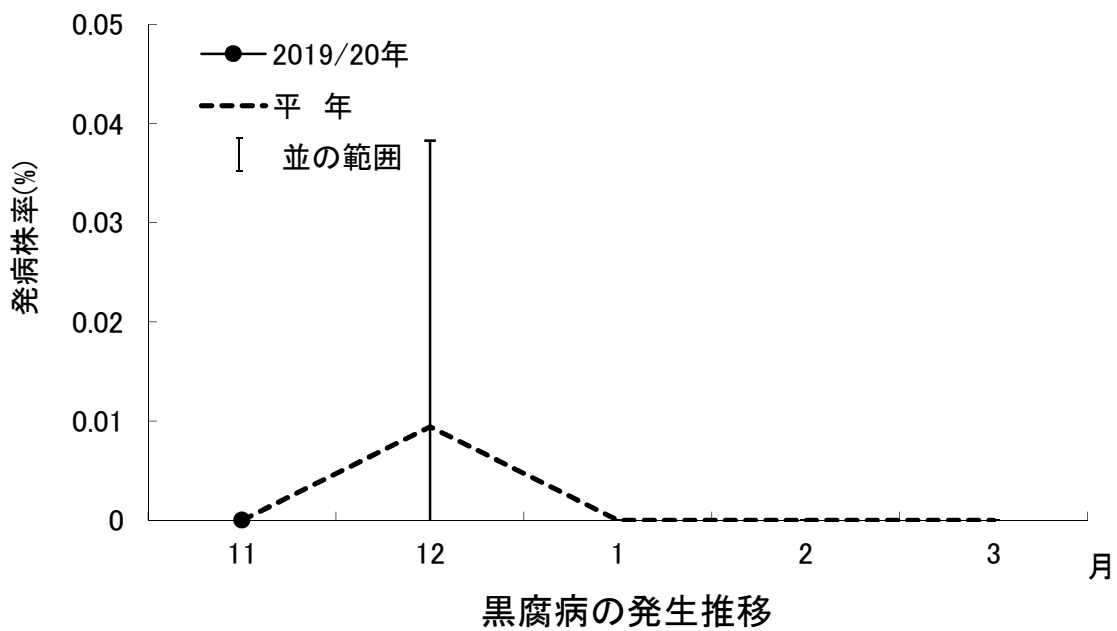


防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに、早めに抜き取る。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。


作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒腐病		
予報	12 月の発生量（平年比）	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

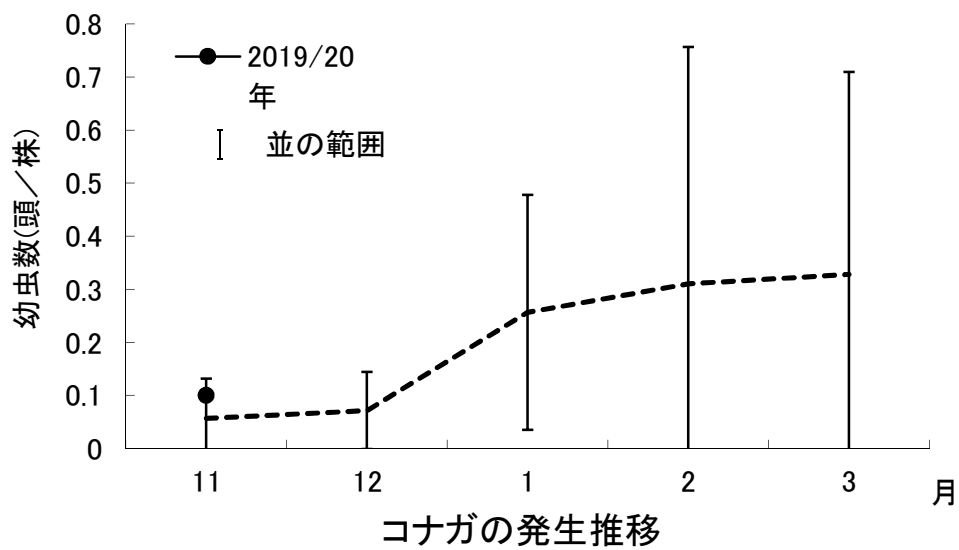


防除のポイント

- ・圃場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・害虫の食害痕は病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も徹底する。


作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	② コナガ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

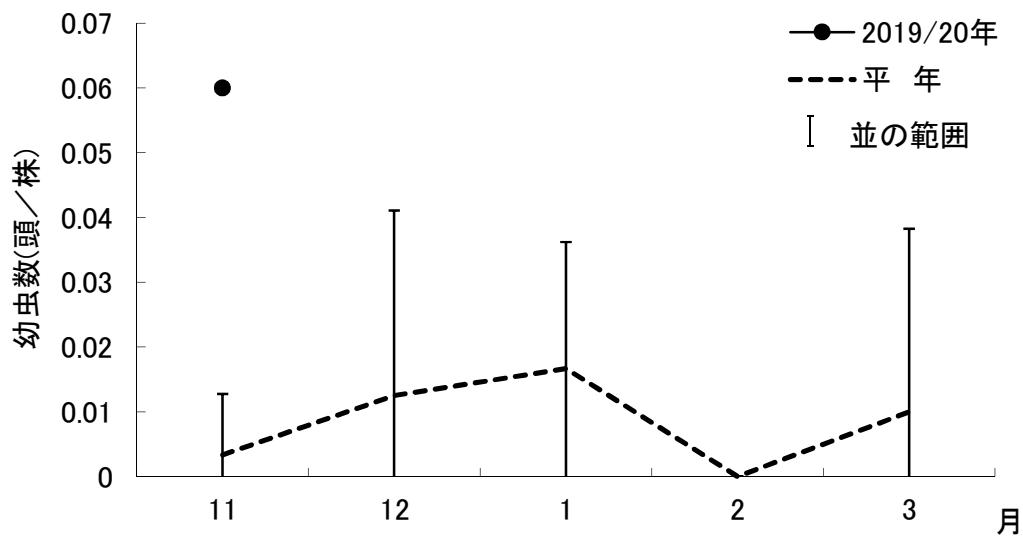


防除のポイント

- ・ほ場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、低密度時に薬剤防除を行う。

作物	キャベツ		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ウワバ類			
予報	12 月の発生量 (平年比)	並		
	11 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果



・一部ほ場で発生した。

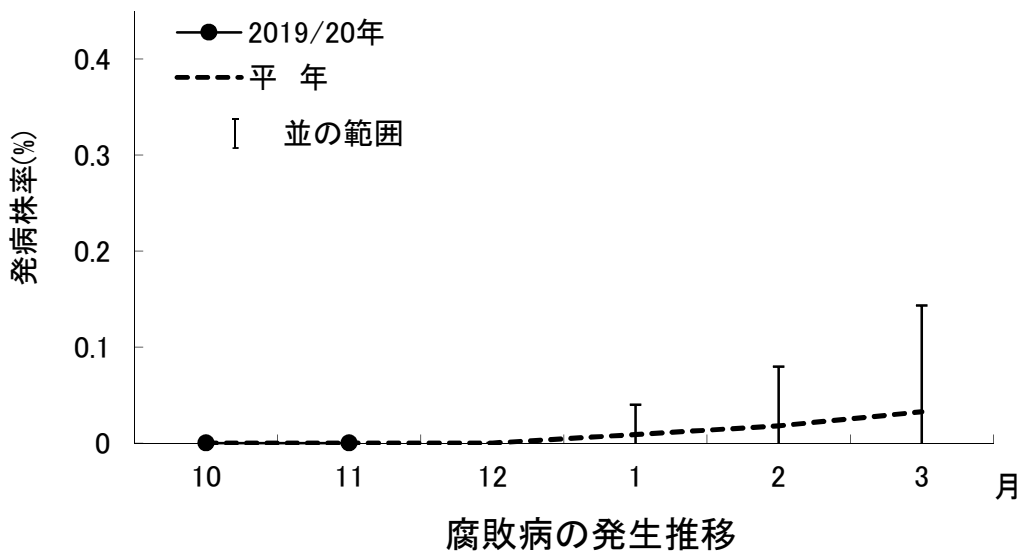
防除のポイント

・ほ場周辺の雑草の除去および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。




作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	腐敗病		
予報	12 月の発生量（平年比）	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

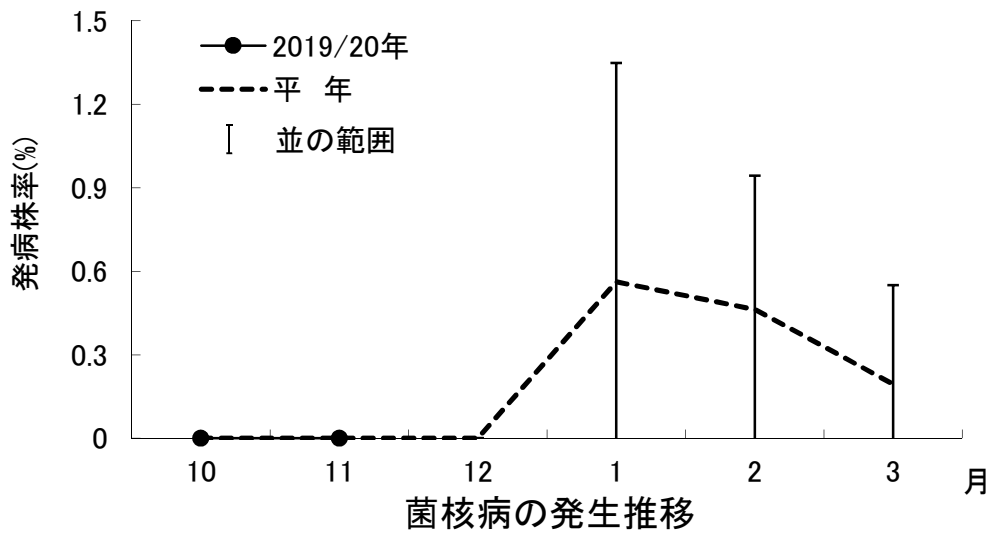


防除のポイント

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	レタス		地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病			
予報	12 月の発生量（平年比）	並		
	11 月からの増減傾向	→		
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

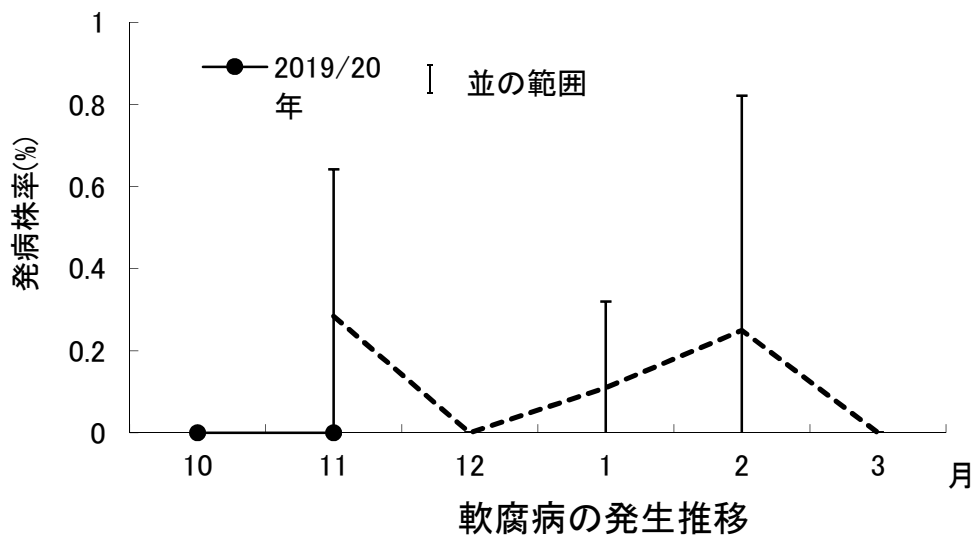


防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに、早めに抜き取る。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。


作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	軟腐病		
予報	12 月の発生量（平年比）	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

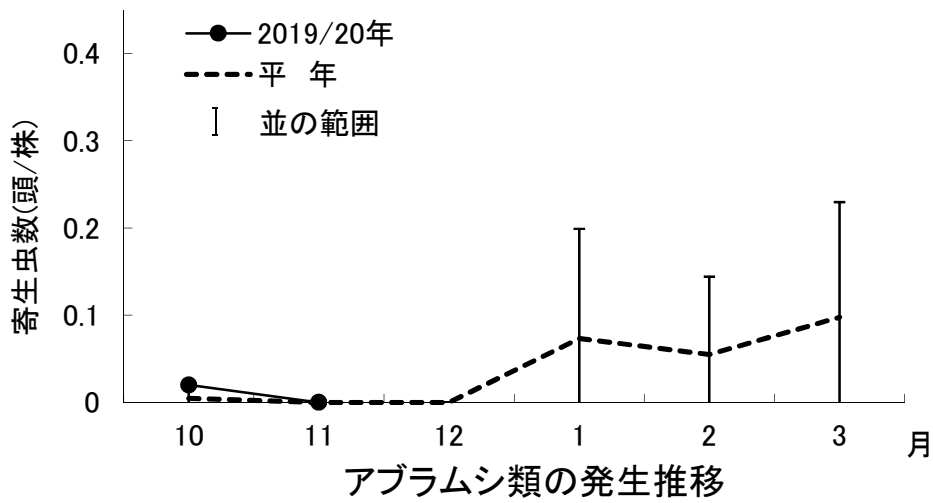


防除のポイント

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・菌の侵入源となる傷口の発生を助長するヨトウ類の幼虫やナメクジなどの駆除に努める
- ・薬剤散布は予防を主として、株元を中心に、丁寧に行う。
- ・発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。


作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	① アブラムシ類		
予報	12 月の発生量（平年比）	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

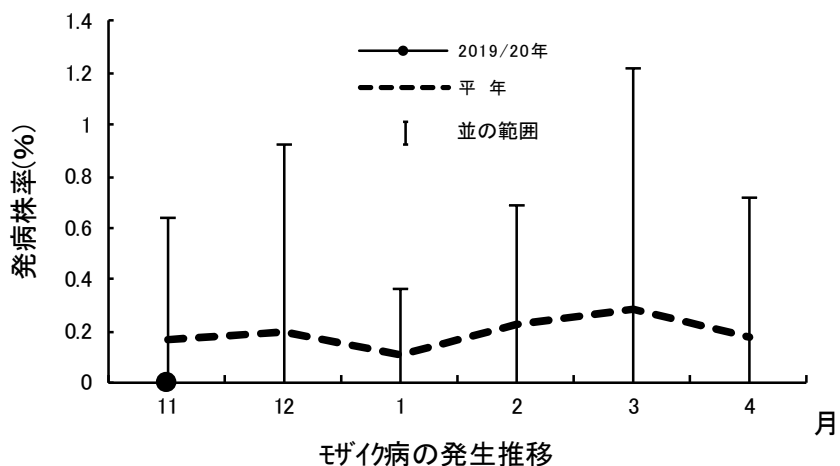


防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・天敵に影響の少ない、選択性殺虫剤を選定する。

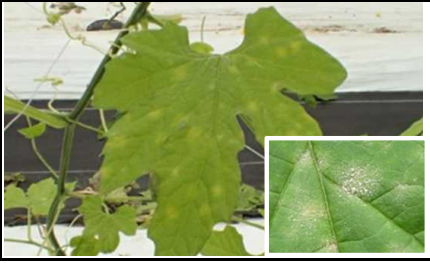
作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① モザイク病(スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→) 媒介虫(アブラムシ類)の発生量が平年並	

調査結果

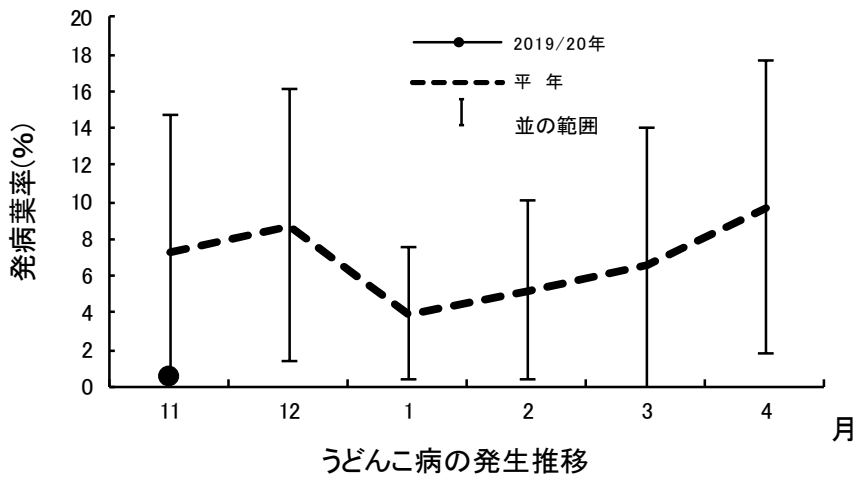


防除のポイント

- ・ 灰白色斑紋病以外のウイルス病は主にアブラムシ類によって媒介される。
- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

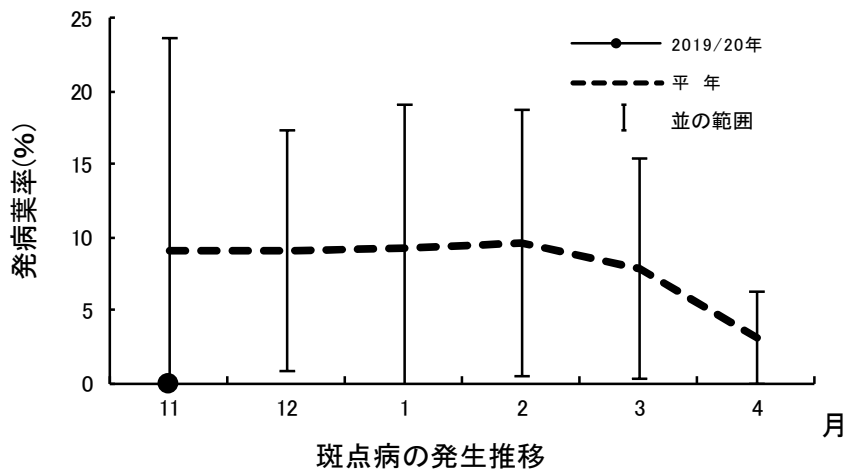


防除のポイント

- ・ 老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。


作物	ゴーヤー(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ 斑点病			
予報	12 月の発生量 (平年比)	並		
	11 月からの増減傾向	→		
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

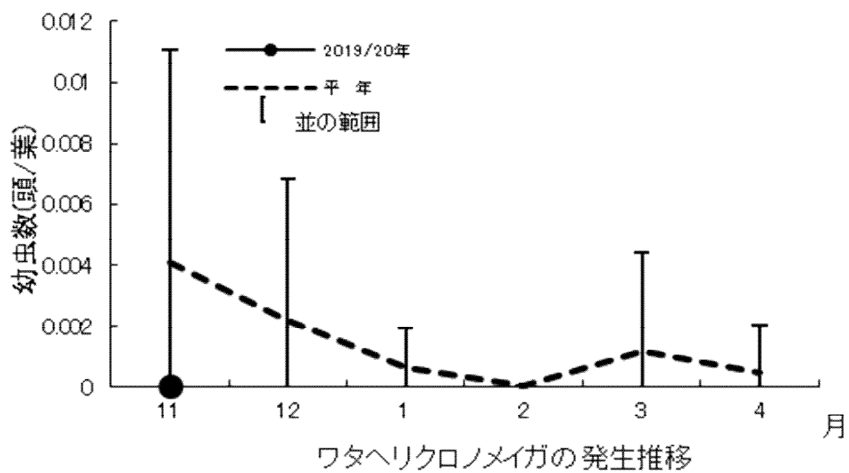


防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ワタヘリクロノメイガ		 <p>老齡幼虫</p>
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果




防除のポイント

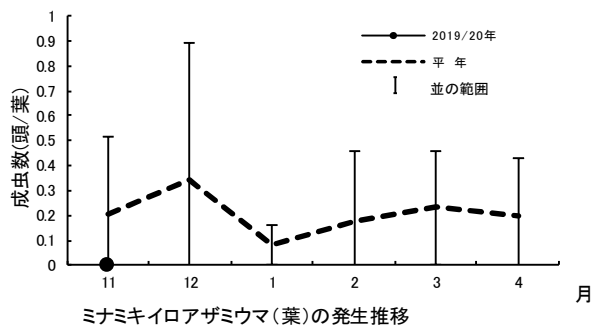
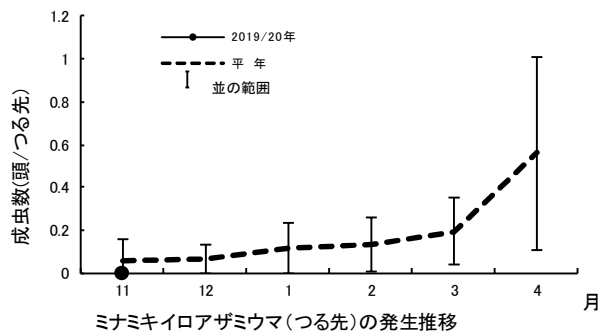
- ・老齡幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齡期の防除が重要である。





作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミナキイロアザミウマ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	


調査結果



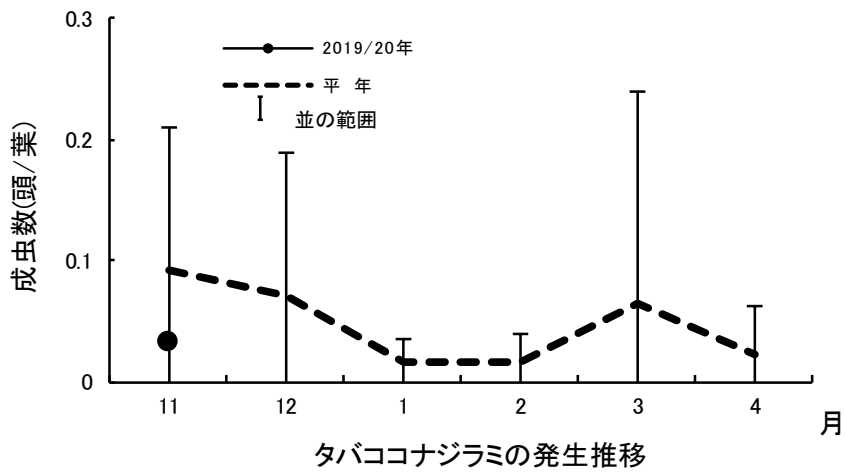
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。




作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ タバココナジラミ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

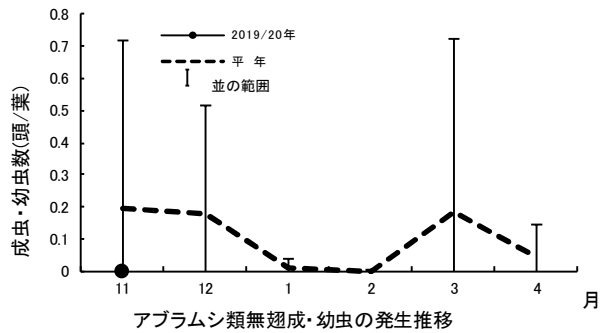
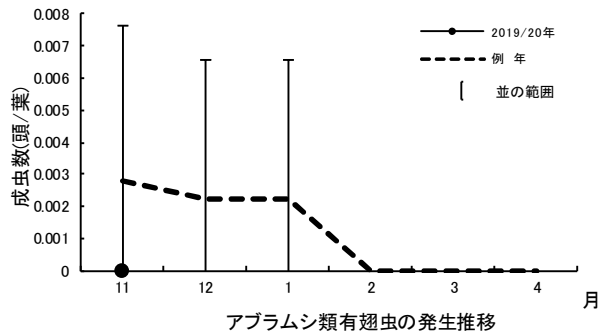


防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑦ アブラムシ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

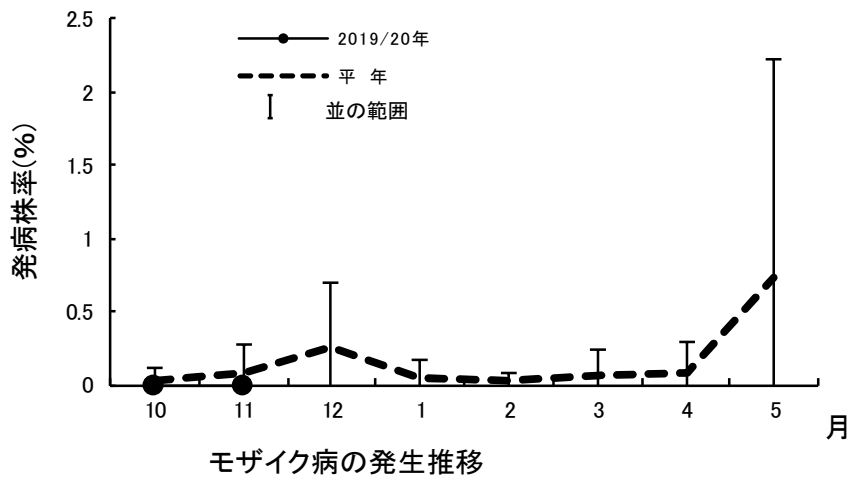


防除のポイント

- ・本種はウイルス病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① モザイク病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 媒介虫(アブラムシ類)の発生量が平年より多い	

調査結果

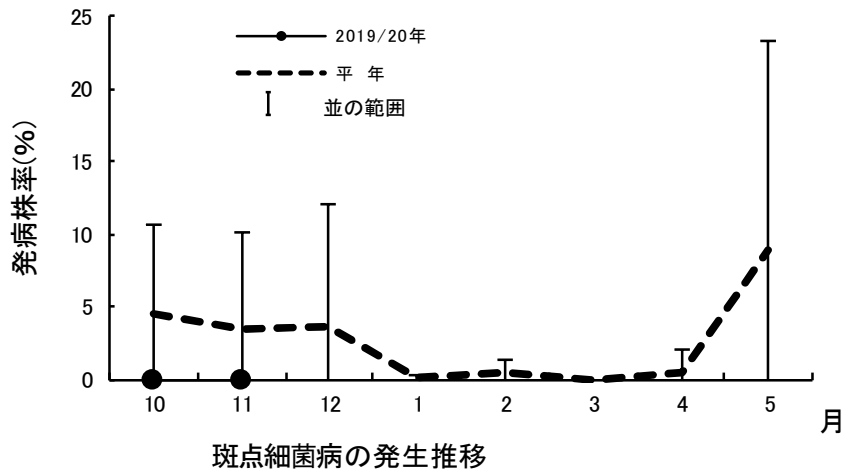


防除のポイント

- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点細菌病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

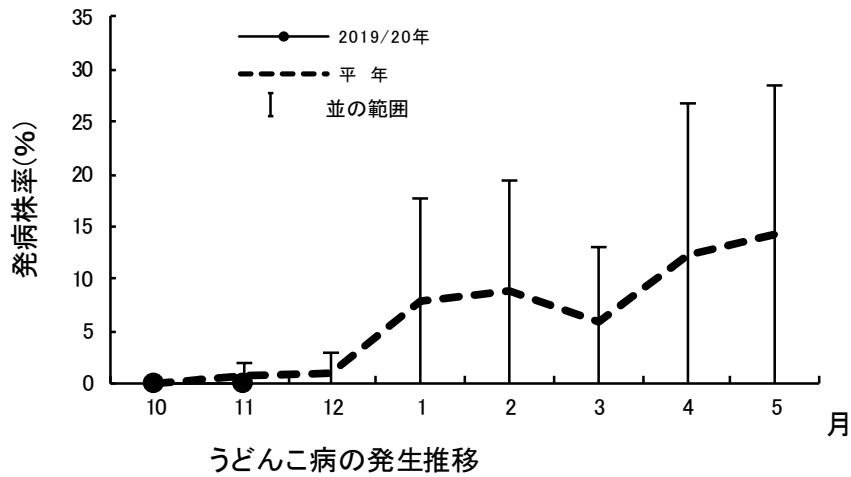


防除のポイント

- ・本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも被害を出す。
- ・ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



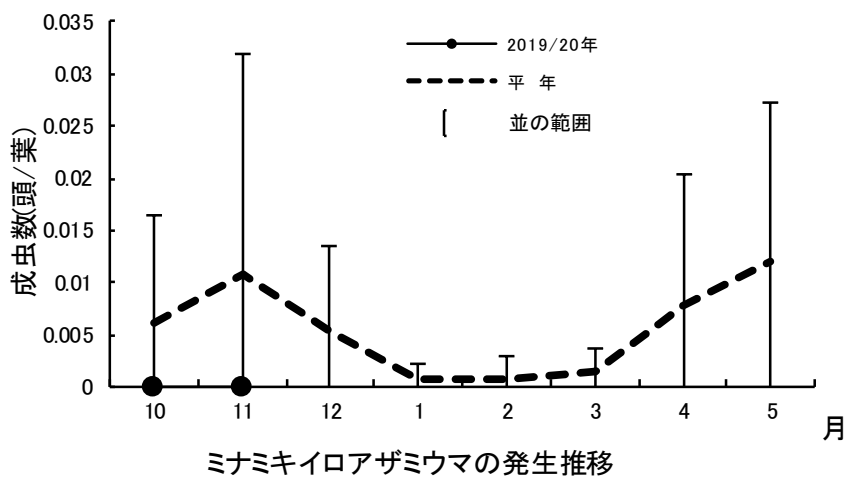
- ・分生子の形成・発芽適温は、25～30℃である。

防除のポイント

- ・通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

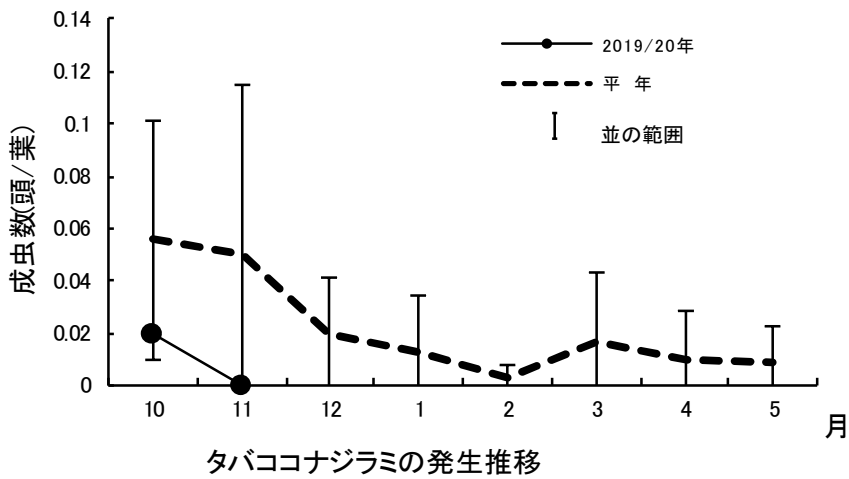


防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果



防除のポイント

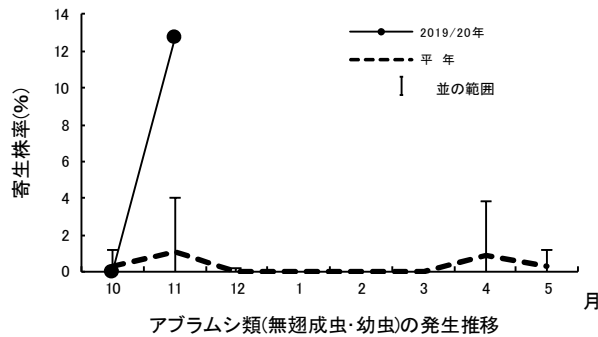
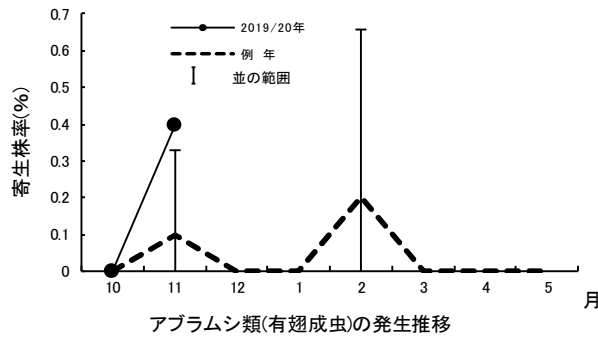
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。





作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	多	
	11 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	


調査結果



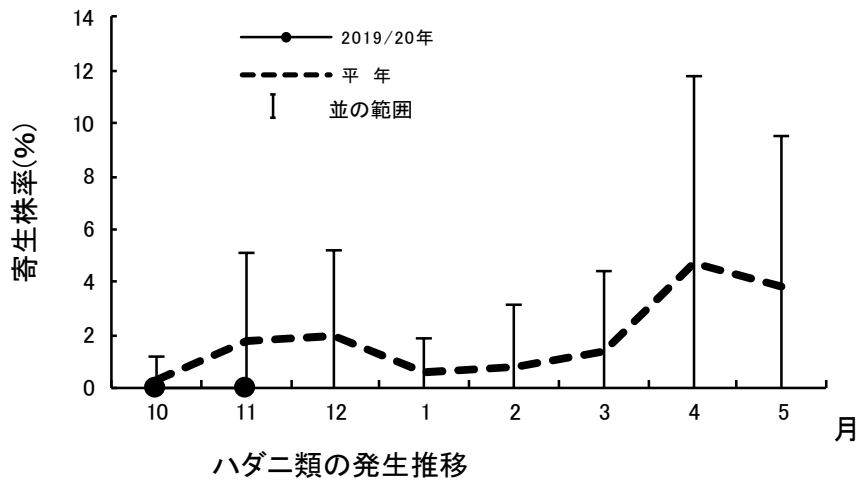
・一部ほ場で発生した

防除のポイント

- ・本種はモザイク病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果




防除のポイント

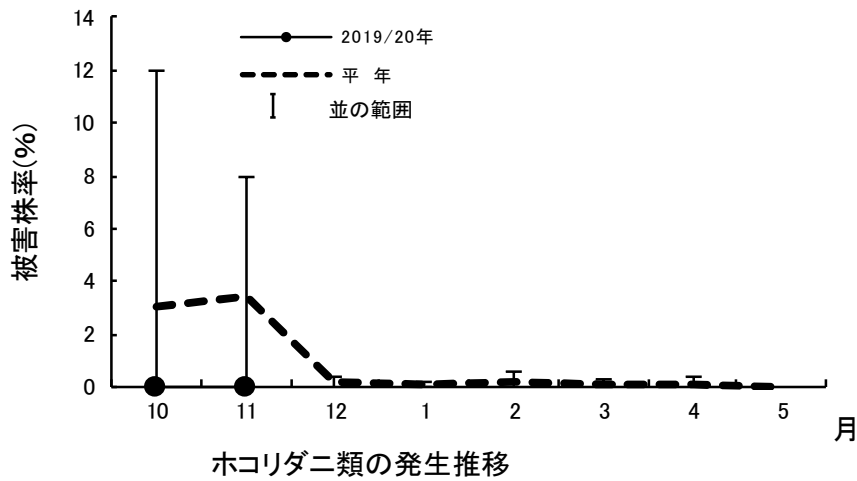
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。



ナミハダニ


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ホコリダニ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

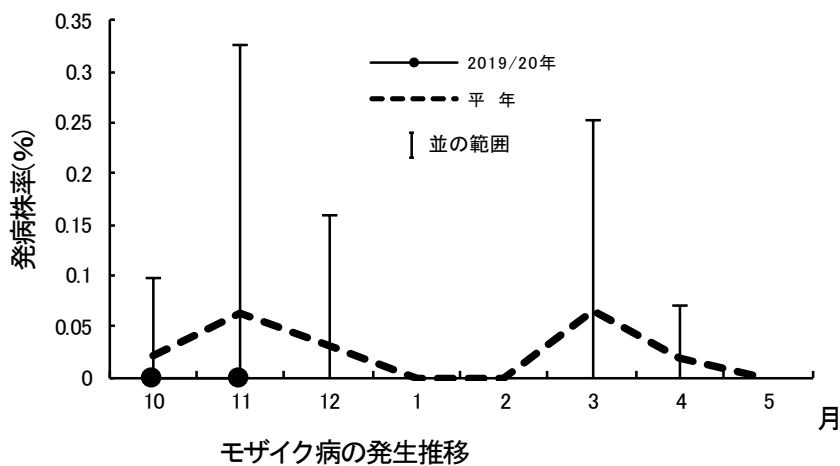


防除のポイント

- ・ 短期間で高密度になりやすいになるため、早期発見・防除に努める。
- ・ 施設内のナス科雑草は発生源となるので除去する。
- ・ 薬散は葉裏へ丁寧にいき、生長点付近や未展開葉に潜っている個体へ薬剤がかかるようにする。
- ・ 天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。


作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	モザイク病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

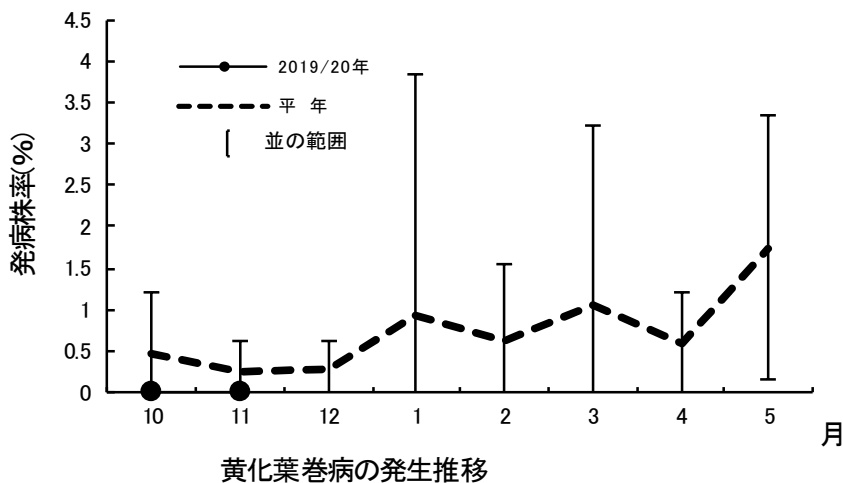


防除のポイント

- ・媒介虫であるアブラムシ類の侵入防止、早期発見・防除に努める。
- ・発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→) 媒介虫(コナジラミ類)の発生量が平年並	

調査結果




防除のポイント

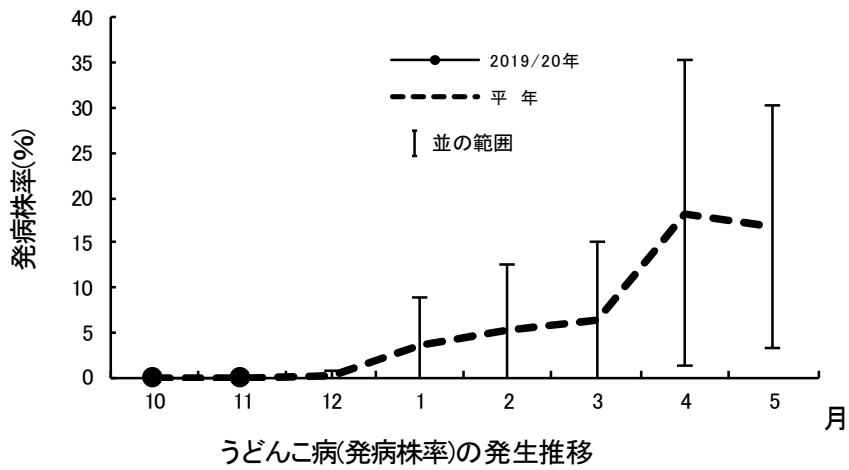
- ・媒介虫であるタバココナジラミの早期発見・防除に努め、伝染源となる感染株は抜き取る。
- ・雑草のムラサキカタバミは塊根に本病の病原ウイルスが感染し次期作の伝染源となるため、根から抜き取る。
- ・感染株及び摘葉残さ、ムラサキカタバミは、施設外に持ち出し必ずポリ袋に入れて密閉処分する。



伝染源となるムラサキカタバミ (ヤハタ)

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



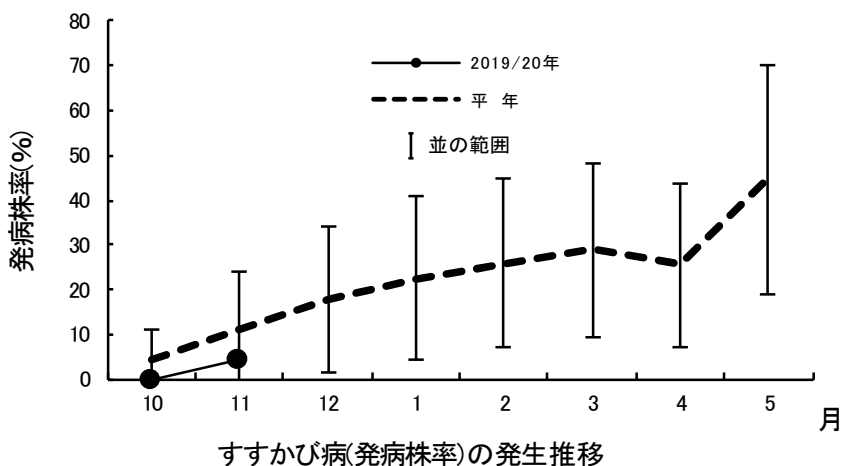
- ・ 菌の発芽適温は、20～25℃である。

防除のポイント

- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期防除に努める。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② すすかび病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	


調査結果



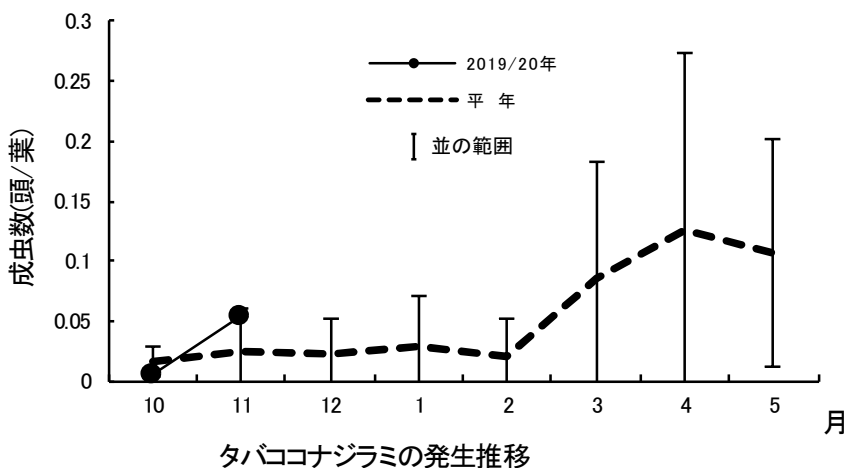
- ・ 菌の生育適温は、26～28℃である。

防除のポイント

- ・ 多発すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除を徹底し、感染の拡大を防ぐ。
- ・ 潜伏期間が長く初発後の感染拡大が早いいため、昨年発生があった施設では特に予防散布を徹底する。
- ・ 多湿条件や密植、過繁茂で発生しやすいため、排水や換気を良くする。
- ・ 発生源となる不要な老葉、下葉は除去し、透光通風をよくする。
- ・ 除去した葉は放置せず、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させる可能性があるため、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ コナジラミ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



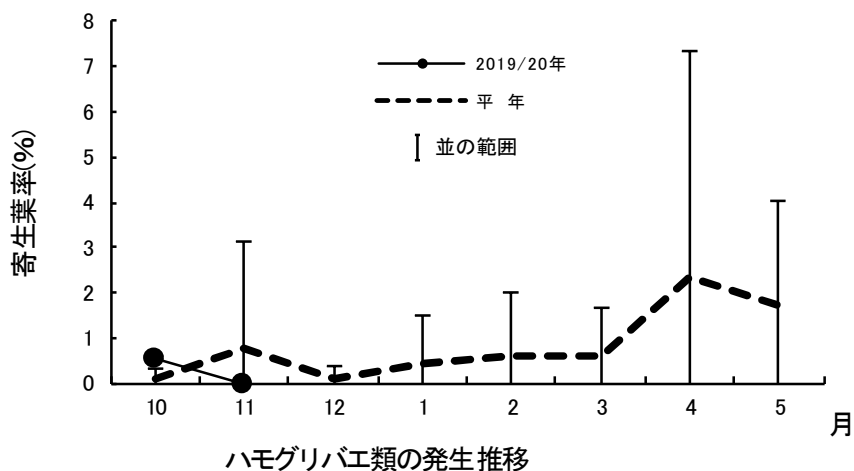
防除のポイント

- ・ 本種はトマト黄化葉巻病を媒介する。
- ・ 多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・ 施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・ 黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・ 幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。




作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

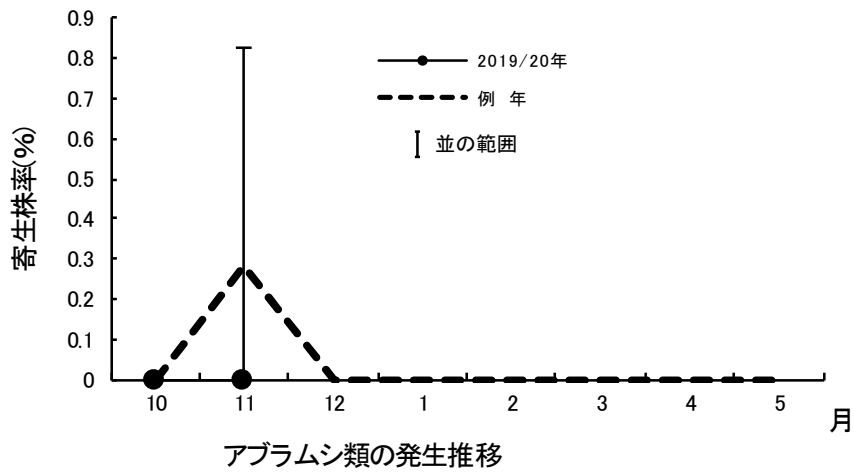


防除のポイント

- ・摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・本種は多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が比較的に短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・農薬やその他の防除資材の効果は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒色に変化する。


作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

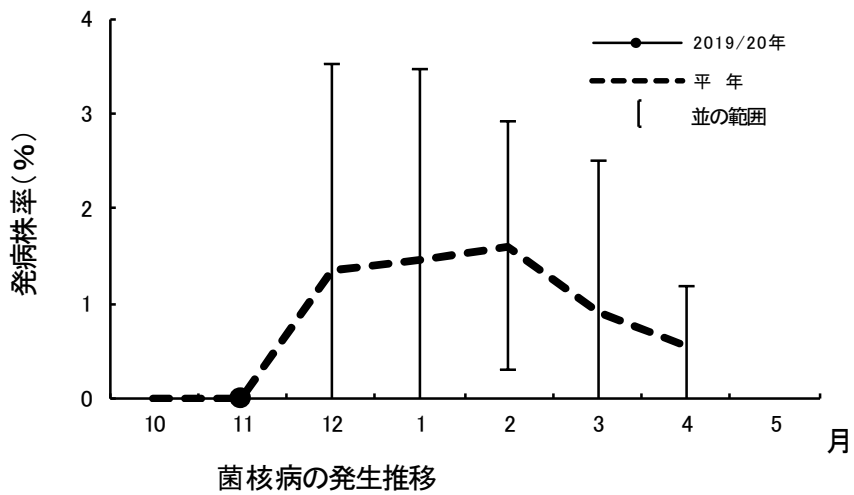


防除のポイント

- ・本種はモザイク病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。


作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	① 菌核病			
予報	12 月の発生量 (平年比)	並		
	11 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の降水量が平年より多い見込み		

調査結果

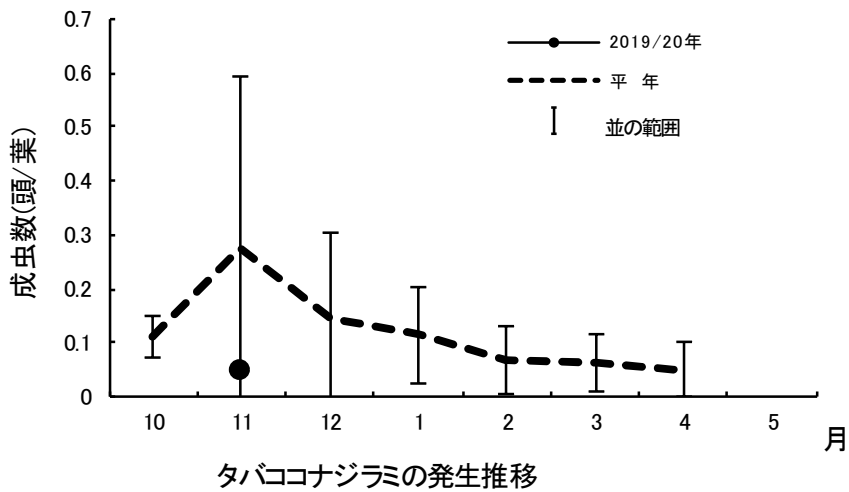


防除のポイント

- ・ 発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ポリ袋に入れるなどしてほ場外へ持ち出し処分する。
- ・ 多湿条件下で発生しやすいので、老葉病葉は取り除き透光通風をよくする。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

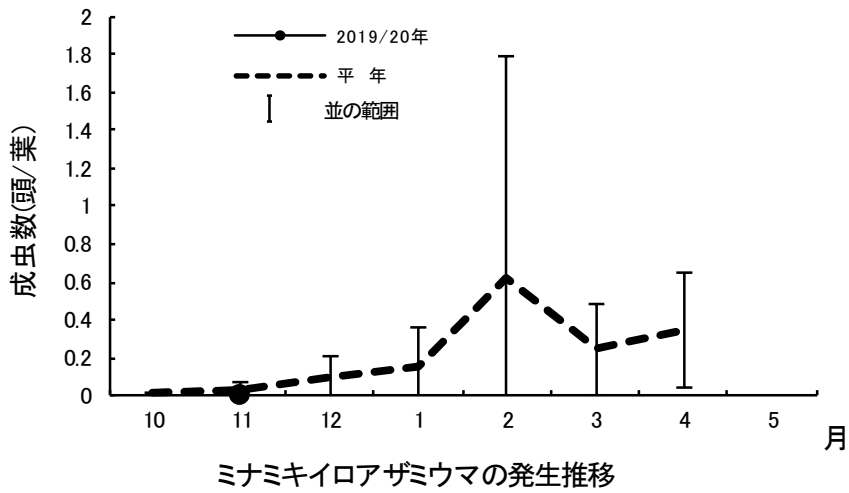


防除のポイント

- ・ ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
- ・ 本種はさやの白化を引き起こすので、出入り口の防虫ネットを二重にするなどして、施設内への侵入を防止する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。  
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。


作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

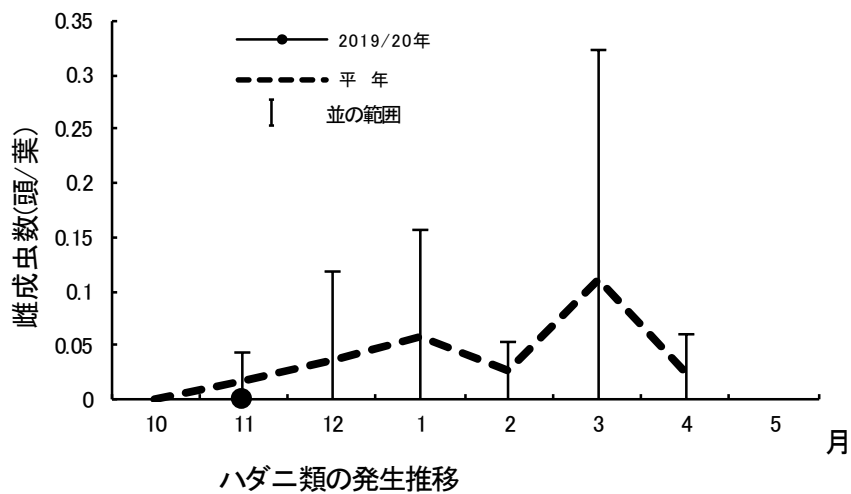


防除のポイント

- ・ほ場の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。


作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

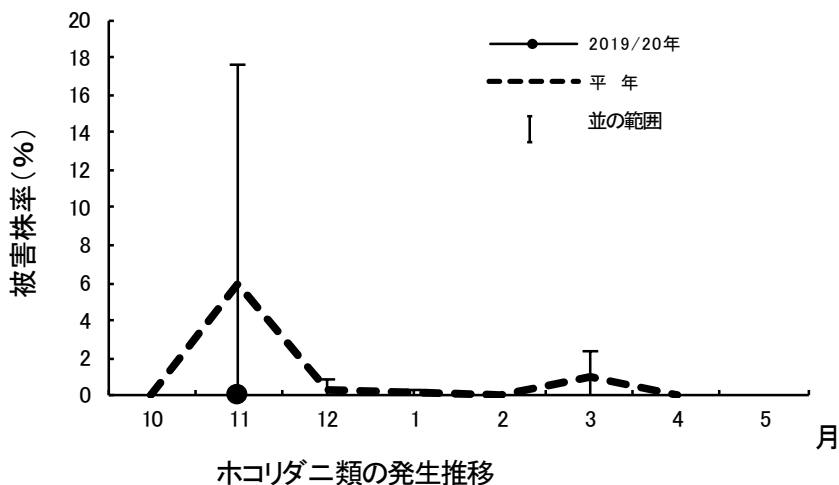


防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。


作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ホコリダニ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	11 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

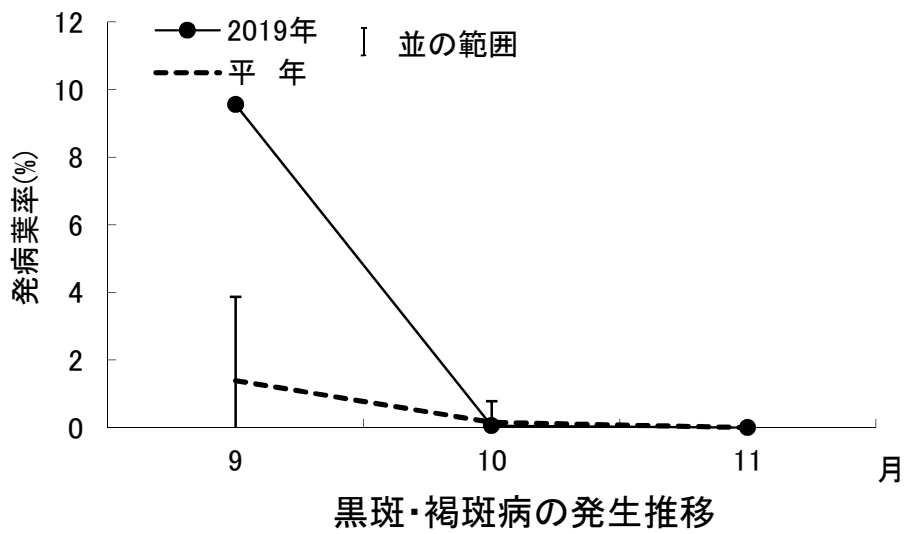


防除のポイント

- ・ 20℃での卵から成虫までの発育期間は13～17日と短く、短期間のうちに高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、葉散は葉裏へ丁寧に行う。
- ・ ほ場内外に寄主植物(主にナス科雑草)が無いよう除草に努める。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	—	
	11 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		


調査結果



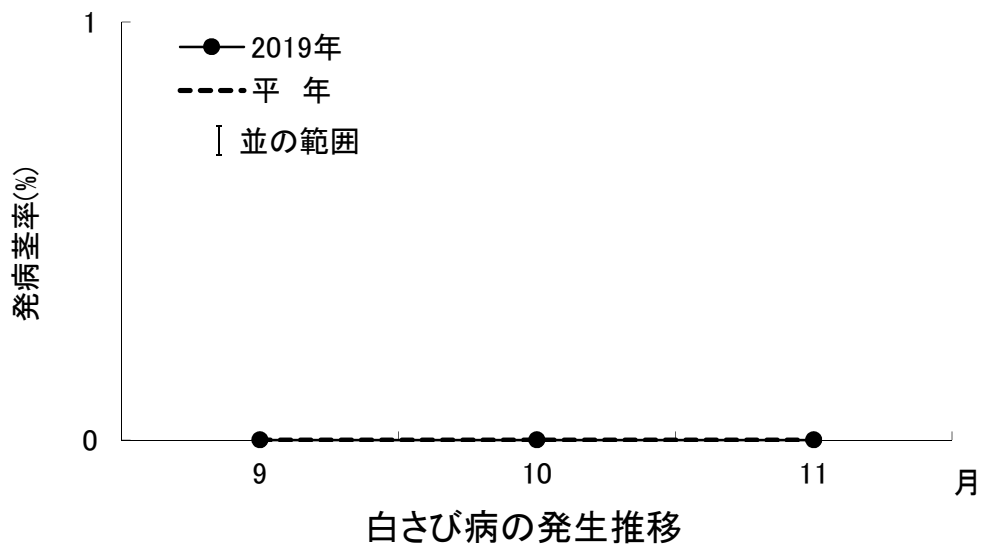
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生が多いため、施肥管理を適正に行う。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。




作物	小ギク(年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	白さび病			
予報	12 月の発生量 (平年比)	—		
	11 月からの増減傾向	—		
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)			

調査結果

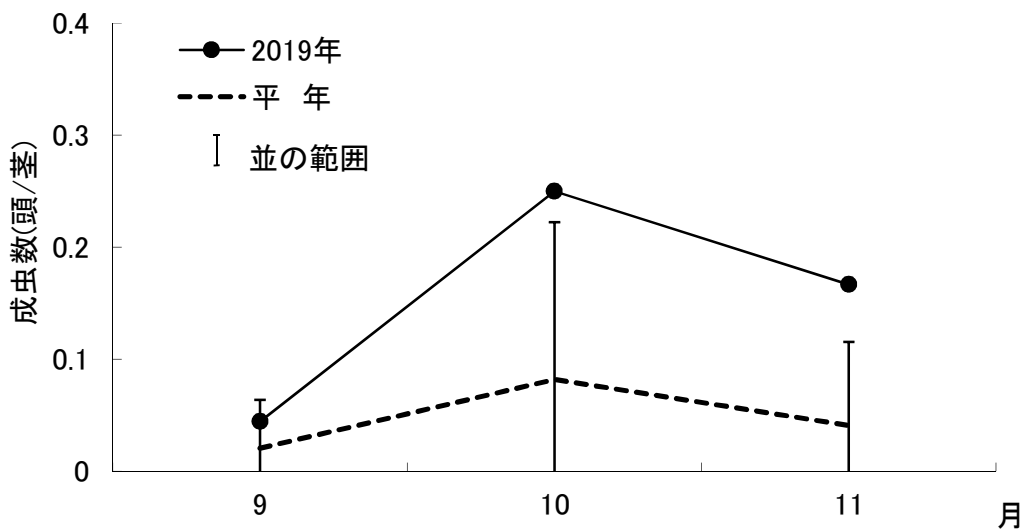


防除のポイント

- ・多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	-	
	11 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果



アザミウマ類の発生推移

- ・発生種はクロゲハナアザミウマであった。
- ・病害虫防除員の報告：中発生(久米島)、中発生(本島北部)

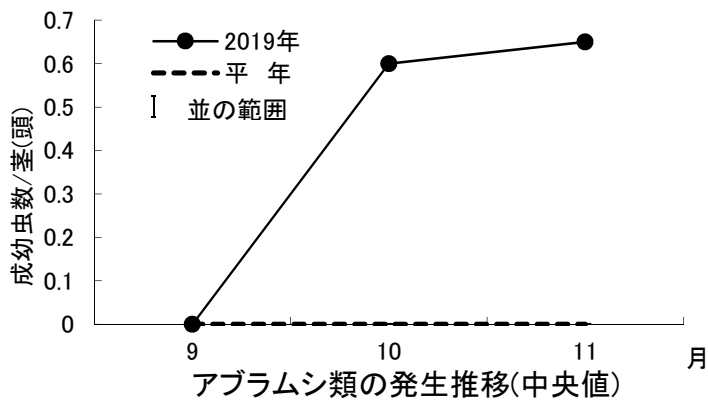
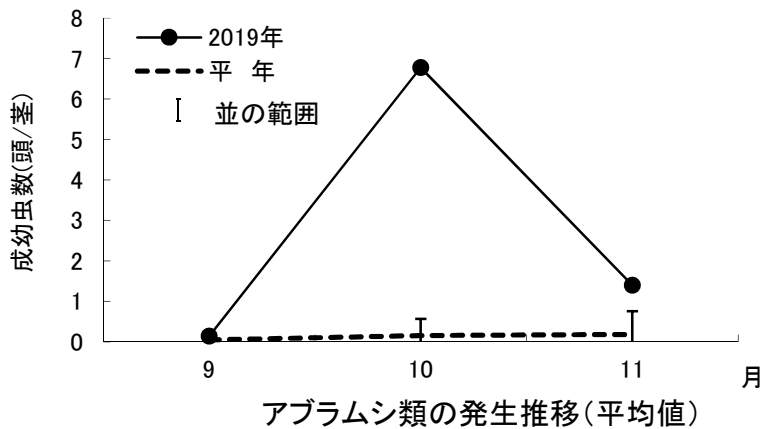
防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	-	
	11 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		



調査結果



防除のポイント


- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。
- ・シルバーポリテープを畦上に張り出すか吊したり等して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・増殖が早いので、新葉や上位葉に多いことに留意し、早期発見・防除に努める。



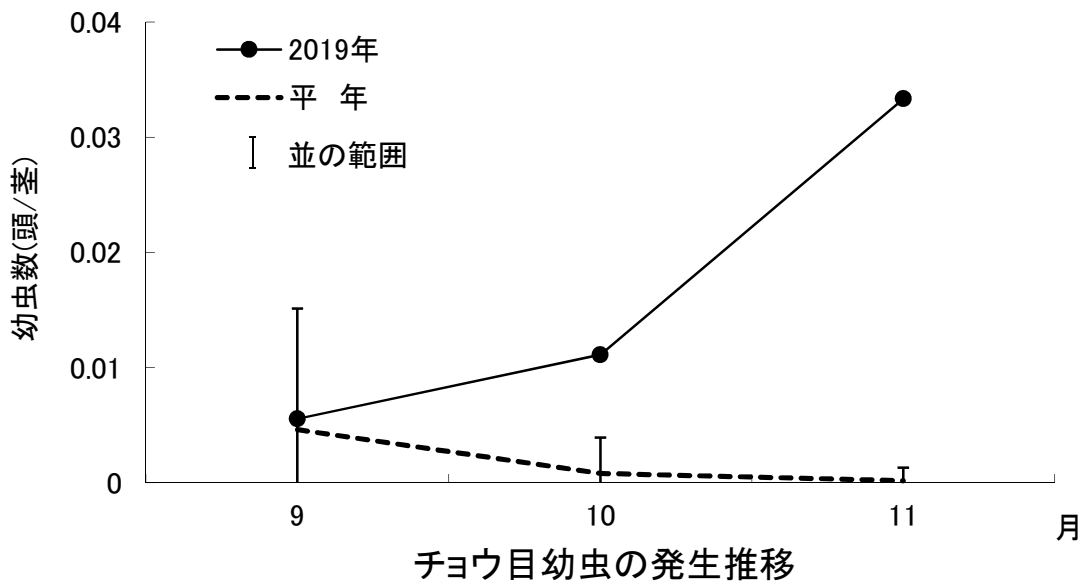
アブラムシによる被害



有翅虫

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫		
予報	12 月の発生量 (平年比)	-	
	11 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



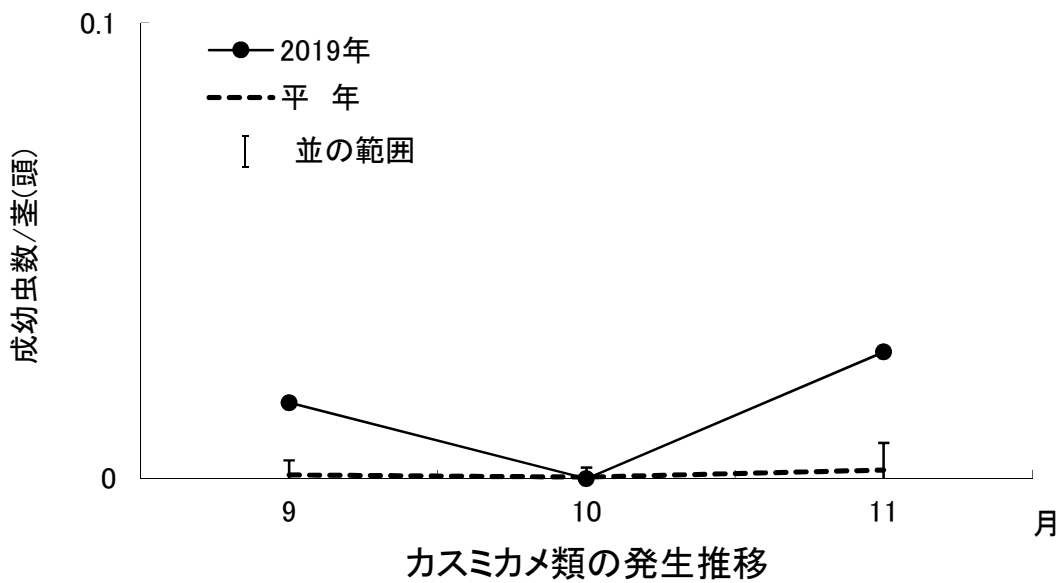
・一部ほ場で発生した。

防除のポイント

- ・新しい食痕や虫糞をみつけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺する。
- ・卵塊やふ化直後の幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除く。
- ・中齢期以降は農薬の効果が低くなるため、早期発見に努め、若齢期に防除を行う。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	—	
	11 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		


調査結果



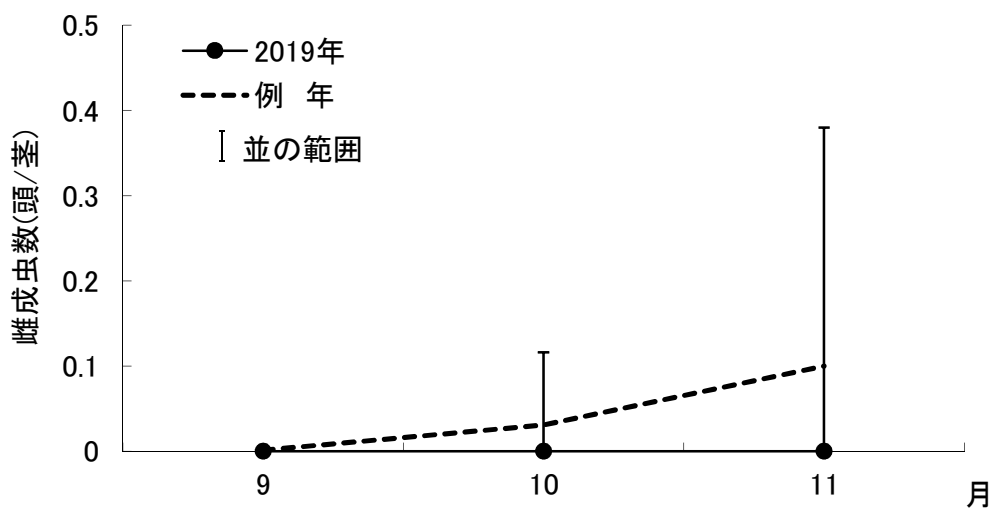
・一部ほ場で発生した。

防除のポイント

- ・電照下では吸汁被害が目立つため、よく観察して防除を行う。
- ・周囲のほ場に収穫残りの花があると発生源になる場合があるので除去する。

作物	小ギク(年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類			
予報	12 月の発生量 (平年比)	-		
	11 月からの増減傾向	-		
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)			

調査結果



ハダニ類の発生推移

・病害虫防除員の報告：少発生(久米島)、中発生(本島北部)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。